

キャリア教育・職業教育（インターンシップ等）の取組の強化についての委員（所属機関御担当者）／協同組合等／企業／高校・大学／県教育委員会の主なコメント

	現状・課題	取組のアイデア
委員（所属機関御担当者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県内小学校の一部では、地域に学び・語り継ぐキャリア教育推進事業を実施。この事業とは別に、市町村によってはものづくり体験等を積極的に行っている例もある。</li> <li>○ 県内中学校で行っている出会いと体験の道場推進事業の予算は縮小傾向。ただ各学校は一定の評価をしており、毎年行う取組として認識している。生徒の受入先は新しい受入先だと手間暇がかかる。中小工場だと安全面での不安がある。安全面は、引率する側としても重要。</li> <li>○ 普通科の上位校は進学しか考えていないのでキャリア教育のイメージはない。勉強はできるがコミュニケーション能力が劣る生徒もいるのでインターンシップはいい機会だと思う。</li> <li>○ 専門学校のものづくり分野では、例えばNC旋盤のプログラミングやCAD/CAMなどの技術者の養成を実施。実際にもものを作る技能者の養成は行っていない(建築関連(大工)はあるが)。</li> <li>○ 小中学校の先生も一緒にやることで理科好きになってもらいたい。先生が好きにならなければ児童には伝わらない。</li> <li>○ インターンシップは、送り出す先生側、受け入れる企業側にも、人、プログラム作成の面でも相当負担になる。</li> <li>○ 県教委が定めた高校の拠点校とハローワークが連携(職員の訪問、企業紹介)しており、既にある程度ネットワークができている。</li> <li>○ 高校の先生の意識として、製造現場に女性を送り込むという意識はそれほどでもないと感じる。最近のものづくり現場はきれい。先生の意識を変えていく必要があるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊田市、安城市、刈谷市では発明クラブの活動も活発だが、このような活動を通して(将来のものづくり人材の)裾野を広げなければならない。</li> <li>○ 高校生全員を1日でもいいからインターンシップをやる、というアイデアもあるかも。普通科では、夏休みに大学見学を薦めているが、その感覚で企業体験もできると良い。</li> <li>○ 学校の「先生」のインターンシップを行うと良い。</li> <li>○ メッセナゴヤに大学生、高校生に来てもらうことで、企業の現場感を感じてもらうことはできると思う。</li> <li>○ ハローワークでは高校の進路指導の先生を対象に事業所見学会を実施したり、職場実習先の開拓をしている。</li> <li>○ 教育委員会が高大連携で「あいちの学校連携ネット」というポータルサイトを作っているが、これと同じコンセプトで産業界との連携版を作って発信するという手もある。</li> <li>○ キャリア教育の副読本を作って学校で使ってもらえばいい(例：千葉)。</li> <li>○ 副読本はたくさん配付されるので有効かどうか疑問。</li> <li>○ 県庁内の横断的連携(例：教育委員会と知事部局)による立案・実行が課題。</li> </ul>
協同組合	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターンシップは、3Kのイメージがある業界のイメージを変える一助になると考えられる(実際は思ったよりきれいな工場もある)。小さい企業の受入は難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ インターンシップによって定着率が高まると思うが、インターンシップの前に訪問先の企業、産業を学んでから企業に来て欲しい。</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 精神面で弱いため、リーダーが育たない。ゆとり教育の弊害か【プレス金型製造】。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校においても、社会に出てから困らないような人格形成を含めた社会適応能力の育成が必要。</li> <li>○ すぐに離職してしまう人たちのために、行政が、仕事をする上での基礎教育の場を提供することで長く働く意識を持たせて欲しい【自動車部品加工】。</li> </ul>
高校・大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 専門高校(工業、商業等)は目の前に就職が見えるため、生徒の職業に対する意識は非常に高い。</li> <li>○ 高校2年次に希望者にインターンシップを実施。受入企業は例年同じで中堅企業が多い。新規開拓は大変。受入企業の選択肢は多い方が良い。</li> <li>○ 工業高校の教員も夏休み期間などを利用して、企業に行って最新の技術/技能/知識を勉強するように言っているものの、部活、資格試験等の補習、技能指導等で忙しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コーディネーターがいると助かる。コーディネーターは学校側で用意する必要性を感じる。</li> <li>○ 受入先探しは時間と労力がかかる。企業側も同じ状態と聞いている。県産業労働部が産業界と連携して何らかのサポートをしてくれるのであれば大変ありがたい。ぜひやってほしい。</li> <li>○ 行政として、学生に中小企業をもっと知ってもらう取組をやってもよいのでは。学生は中小企業のダイナミックさを知らない。親も中小企業の不安定さというリスクに敏感になっている。</li> <li>○ 県教委実施の「地域ものづくりスキルアップ講座」に関して、県産業労働部とさらに連携・拡大してもらえるとありがたい。産労部の熟練技能者派遣事業も良い機会になっている。</li> </ul>
県教委	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県立高等学校では、在学中に1度はインターンシップ等の体験学習に取り組むよう促しているが、普通科を中心にまだ十分ではないと考えている。あいち夢はぐくみサポーター制度を積極的に活用することで、さらに多くの生徒が体験学習に取り組めるよう指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高大連携のポータルサイト「あいちの学校連携ネット」の産学連携版を作成するというアイデアは良い。コンテンツの一つとしてあいち夢はぐくみサポーター制度を入れ込み、教員への周知、受入企業の広報などを強化する方法も考えられる。</li> </ul> <p>今後10年間の高等学校の在り方を示した県立高等学校教育改革推進計画にもキャリア教育コーディネーターの配置について検討することが示されており、今後その実現に努めていく。</p>